

泳いでこいで走って笑った

ジュニアトライアスロン大会

第5回きりしまんぢだジュニアトライアスロン大会in都城が6月12日、高崎総合公園で開催されました。水泳、自転車、持久走の全ての競技を一人でこなす個人（小学生、中学生）の部と3人一組で参加する家族リレーの部におよそ80人がエントリー。時折小雨が降るあいにくの天気の中、参加者らはそれぞれのクラスでトップを目指し奮闘していました。小学生の部1位の中村香貴君（宮村小6年）は「前回よりも良い順位でうれしい。来年もまた参加したい」と笑顔で汗をぬぐっていました。



揺らめく明かりの中でスローな夜を

キャンドルの光と初夏の音色

ろうそくの明かりでゆったりとした夜を過ごそうと「キャンドルナイト」が6月18日、ウエルネス交流プラザで行われました。「100万人のキャンドルナイト」の一環として、今年は、蜜ろうキャンドル作りとクラシックギターコンサートを開催。手作りの蜜ろうキャンドルや灯籠が飾られ、会場は幻想的な雰囲気になりました。家族と訪れた塚本千絵さん（明道小6年）は「キャンドル作りは難しかったが、会場はロマンチックでギターの音色とあっていい」と話していました。



都城に新たな名物を

都城新・ご当地グルメ完成発表会

都城新・ご当地グルメ完成発表会が6月29日、市内のホテルで開催されました。食で地域を盛り上げようと、都城ご当地グルメ推進協議会（天水富士雄会長）が試行錯誤の末、「都城焼き肉三味炭火定食」を開発。発表会の後、参加した関係者ら97人は、本市が全国有数の生産量を誇る牛肉や豚肉、鶏肉をはじめ地元産にこだわったメニューを一足早く味わっていました。浜田忠紀さん（高城観光協会）は、「都城の味を存分に楽しめた。都城の新たな名物になってほしい」と期待を込めていました。



地域の親睦を深めるスポーツ大会

自治公民館対抗バレーボール大会

山田地区の住民の交流を図る自治公民館対抗バレーボール・ソフトバレーボール大会が7月3日、山田体育館を中心に開催されました。9人制バレーボールには23チーム、ソフトバレーボールには18チーム、約632人が参加。開会式では蔵満区長から「口蹄疫やゲリラ豪雨から1年。昨年は開催できなかった分、精一杯プレーして欲しい」と激励の言葉が贈られました。選手らは応援に駆け付けた人たちからの温かい声援を受け、気持ちのいい汗を流していました。



スポーツで地域を越えた交流

高崎地区体育協会スポーツ祭

高崎地区体育協会スポーツ祭が7月3日、高崎総合公園などで開催されました。24回目となる今年は、自治公民館対抗のパークゴルフをはじめ、弓道などの公開競技を含む全8競技に総勢約900人が出場。各会場では、選手らが日頃鍛えた腕前を競い合ったり、弁当を囲んで会話を楽しんだりしていました。四半的弓道競技に出場した中西ツキさん（下新田自治公民館）は「20年以上続けているが、胸を張って矢を放つので姿勢がよくなり健康にもいい」と元気に話していました。



賞味期限は2万年？

南極の水贈呈

土石流への警戒が続く御池小学校の児童に7月6日、自衛隊宮崎地方協力本部から南極の水がプレゼントされました。プレゼントされた水は南極の地下4メートルから採取された約2万年前のもので、重さはおよそ10キロ。児童らは南極の水を水に入れ2万年前の空気がはじける音を聞いたたり、かき氷にして食べたりするなど、五感を使って普通の水との違いを確かめていました。福田一樹くん（6年）は「南極の水は白くて手触りもざらざらしていた」と初めて見る南極の水に目を輝かせていました。



心温まる手づくりの祭り

笛水夏祭り

笛水夏祭りが7月16日、高崎町の笛水小中学校で行われました。地元の小中学生などからなる笛水流星太鼓の演奏で祭りがスタート。地元の園児が踊りを踊ったり、小学生が合唱をしたりしたほか、伝統芸能の地突き唄も披露されました。昔、家を建てる前に地面を固める作業中に歌われた地突き唄。歌に合わせて、小中学生全員が力を合わせ重い丸太を持ち上げては落とし、地面を固めていました。村脇出葵さん（6年）は「2カ月ぐらい練習した成果が出せて良かった」と笑顔で話していました。



遺徳をしのぶ気持ちが集結

名誉市民故郷之内久氏銅像除幕式

名誉市民の故郷之内久さんの銅像が完成し7月18日、都城地域家畜市場で除幕式が行われました。有志らでつくる顕彰会が寄付を募って建立。式典で長峯市長は「古里や農業を第一に考えてこられた。功績や人柄を後世に伝えたい」とあいさつし、畜産業の振興など、郷土の発展のために力を尽くした故人の功績をたたえました。生誕の地、中郷地区でも地元住民らでつくる実行委員会が金御岳に顕彰碑を建立し、3日に行われた除幕式で、故人の笑顔や碑文が刻まれた石碑が披露されました。



●家畜市場の銅像

●金御岳の顕彰碑

人の風景

宮崎行政相談委員協議会副会長

石崎 陽一さん



発 足50周年を迎えた行政相談委員制度。本市でも国からの委嘱を受けた6人の行政相談委員が定期的に相談所を開設しています。その中の一人が石崎陽一さん（上川東一丁目・71歳）です。

石崎さんは、市役所を退職後、それまでお世話になった人々や地域に恩返しをしたいとの思いで、平成13年から行政相談委員の活動を続けています。

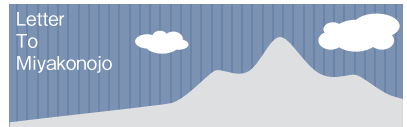
行政相談委員制度は、国などの仕事や行政サービスについて苦情や要望、意見などを受け付け、公正・中立な立場から関係する機関に通知や連絡を行い、それらの解決を促すものです。実際に受け付ける内容は、国などの仕事に関するもの以外にも、県や市町村に関するものや多重債務など民事的なものまでさまざまです。

相談者の中には、問題が複雑で相談先が分からずに相談所を訪れる人も。そのような場合は、相談する人の立場になって話を親身に

聴き、誠心誠意向き合うことが大切と話す石崎さん。時には相談者と共に関係する行政機関などへ足を運び、双方の話を聞きながら解決の橋渡しをすることもあります。また一方で行政サービスに関する相談の場合は、はじめに担当者や丁寧な説明や対応をしていれば、後になって問題とならなかつたのではと感じることもあるとい

います。石崎さんのもう一つの取り組みは高校生からはじめたソフトテニスの普及。相談日以外は、練習に試合にと、市内外を飛び回っています。行政相談委員の活動が続けられるのも、ソフトテニスで培った体力のおかげと感じています。

行政相談委員の委嘱を受け10年が経過し、「今後は、民生委員・児童委員や自治公民館連絡協議会などと連携を深め、より地域や生活に根ざした行政相談委員として皆さんの相談ごとの解決に尽力したい」と目標を話していました。



都城讃歌

【浜松からのエール】

東郷 敬一郎さん



東郷 敬一郎

◎プロフィール

昭和28年12月11日生まれ。
都城高専卒業。平成元年より静岡大学工学部に赴任、
現在教授、平成22年より工学部長。

都城を20歳で離れて38年になります。今、静岡県浜松市にある静岡大学工学部で教育と研究に従事しています。23年目になりました。浜松はウナギで有名ですが、オートバイ、自動車、楽器、光産業などモノづくりの街です。また、静岡大学工学部はテレビ発祥の地でもあります。この地で、大学教員としての職務に従事する傍ら、中学校の時から始めた剣道を趣味として続け、子どもたちに教えています。宮崎県は口蹄疫や鳥インフルエンザ、そして新燃岳の噴火など災難続きで、心を痛めています。東日本大震災以来、ニュースで報道されなくなりましたが、今、新燃岳はどんな状況でし

ようか？ 都城で生まれ、五十市小学校、五十市中学校、都城高専に通いながら、都城で育ちました。38年たった今でも時々都城から見える高千穂峰、街並みなどの夢を見ることがあります。都城高専在学中に仲間と冬のさなかに韓国岳、新燃岳、高千穂峰と縦走したことがあります。韓国岳で見た霧氷はきれいでした。冬の快晴の中、峰々を歩き、弁当を食べ、色々なことを語らい合いました。忘れられない青春の1ページです。両親ともに他界し、帰省する機会が少なくなりましたが、都城が、豊かな自然と温かい人柄と絆を大切に、益々発展することを祈っています。

学校へ行こう

都城泉ヶ丘高等学校附属中学校

妻ヶ丘町27街区15号 ☎23-0223



◎学校のシンボル

「質実剛健」

6年間の一貫した教育を通して、ゆとりの中で生きる力を育み、一人一人の知性を磨き、個性を豊かにし、自立心を養います。

「伝統をつくる」

都城泉ヶ丘高校附属中学校学級会

私たちの学校には、「自立・知性・個性」という、通称「3I」と呼ばれる目標があります。私たちは、普段これを目標として楽しい学校生活を送っています。また、文武両道を目標に部活動にも積極的に取り組んでいます。

学習面では、本校独自の授業があります。英語で会話する能力が身に付く「C-TIME」、読解力やディスカッション能力などが身につく「D-TIME」など、将来に役立つ授業を受け

ることができず。また、大学探訪や企業探訪など充実した体験カリキュラムもあります。行事の面では、高校生と一緒に大規模なものを行っています。特に、都泉祭は、9月上旬の3日間にかけて行われます。この3日間は、クラスの友達とさらに仲良くなれ、高校生の先輩たちとも仲良くなることできます。

泉ヶ丘附属中学校は、今年で創立2年目を迎えたばかりです。これから私たちが新しい伝統をつくり、泉ヶ丘高校のように歴史ある学校にしていきたいと思えます。